



子どもたち 先生方の笑顔のために

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和5年2月20日発行

第26号

中信教育事務所



ご意見はこちら→

←過去の「共に歩まん」はこちら

シリーズ「キラリ☆先生方の実践」

【算数科編】 大町市立八坂小学校 熊谷航先生

第6学年 単元名「比例」

熊谷先生のキラリ☆

本単元を総合的な学習の時間で行っている「おやきづくり」と結び付けて授業を構想しました。さらに、本時はICTを活用し、伴って変わる二つの数量を入力するとグラフが自動で作成される表を準備しました。

子どもが現実の世界と数学の世界を往還し、比例についての理解を深めることを期待して、本時を設定しました。



キラリ☆から生まれた子供の姿

「なんでグラフの最初が途切れるの？」AさんはICTを活用して作成したグラフを見て、疑問をもちました。Aさんはグラフから表に戻り、表の数値がグラフにどう反映するのかを確かめていくことを通して、おやきが0個の時の材料費0円については日常では考えないことである一方で、比例として表現したいときには必要な数量であることを発見していきました。変化や対応の特徴から、現実の世界に照らして考察した姿でした。



【特別支援教育編】 塩尻市立桔梗小学校 望月章史先生

(通常学級における特別支援教育) 算数 第3学年 単元名「式と計算」

望月先生のキラリ☆

配慮を必要とする子供も共に学べる授業づくりを目指している望月先生。

学習に取り組み始めることが難しいAさんの実態把握を丁寧に行い、見通しがもてれば意欲につながる、ととらえ、授業の開始前と導入の場面に焦点を当て、次のような支援をしました。

- ①授業内容を予め把握できるように授業前に個別にワークシートを渡し、授業内容を伝えました。
- ②Aさんが問いに対する解決方法を考えられるように、支援員の先生と2人で買い物の仕方を劇仕立てで示しました。



キラリ☆から生まれた子供の姿

- ①事前にもらったワークシートにより、何をすることが明確になっていたことで、授業開始とともに安心して授業に参加しました。
- ②劇を見たことで「ジュースとみかんの代金をべつべつにしたり、一人分の代金にしたりして考える」2通りの解き方をイメージでき、解決への見通しをもてたAさんは、自分で1つの解き方を選んで、すぐにワークシートに取り組み始めました。

望月先生の支援がAさんの学習の意欲につながりました。その後もペア学習や全体追究にも生き生きと取り組んでいました。